

第60回 記者懇談会実施概要

1 日 時 2009年6月24日(水) 15時～17時

2 場 所 100周年記念会館 第2会議室

3 内 容

(1) 研究発表・質疑応答 (15:00～16:00)

- ・木村 麻子 商学部准教授
発表テーマ「レピュテーション・マネジメントの基本問題
－管理会計の視点から－」
- ・秋山 孝正 環境都市工学部教授
発表テーマ「料金政策を考慮した都市高速道路の交通運用」

(2) 学内状況説明・情報交換 (16:00～17:00)

- ① 薬物に関する意識調査の集計結果について 資料1
- ② 平成21年度地方教育懇談会の実施について 資料2
- ③ 教職支援センターの取り組みについて 資料3
- ④ 国際協力セミナー「ODAと外交」について 資料4
- ⑤ 国際知的財産権シンポジウムの開催について 資料5
- ⑥ タイ王国裁判官研修・裁判所職員研修について 資料6
- ⑦ グローバルCOE文化交渉学教育研究拠点の学術交流協定締結状況について 資料7
- ⑧ 夏休みの小・中・高校生向けプログラムの実施について 資料8
- ⑨ 関大生の活躍について 資料9

4 大学側出席者

河田悌一学長、芝井敬司副学長、良永康平学長補佐、
木村麻子商学部准教授、秋山孝正環境都市工学部教授、
山本登朗教職支援センター長(文学部教授)、
竹内啓三教職支援センター専門委員(特任教授)、辻本修一教職支援センター専門委員(特任教授)、
澤山利広国際部准教授、山名美加法学部准教授、松浦紀哉学事局教務事務グループ長
川原哲夫学長室次長(学長担当)、横山博行広報室次長、木田勝也広報課長 他

5 参考資料

- (1) 法学研究所 第80回特別研究会 チラシ
- (2) 関西大学通信 第363号

以 上

レピュテーション・マネジメントの基本問題

－管理会計の視点から－

商学部准教授 木村麻子

【概要】

近年、企業の競争優位の源泉は土地や機械設備などの有形固定資産から、特許権やイノベーション能力、ブランド、レピュテーション（＝評判）などの見えざる資産へと変遷しつつある。従来と変わらず、土地や機械設備も企業に収益をもたらすが、特許権、イノベーション能力、ブランド、レピュテーション等がそれらの収益をレバレッジし、企業の収益を拡大する。つまり、見えざる資産の管理が、企業の経営管理上重要な意味を持つのである。

これら見えざる資産に対して、従来の会計は必ずしもその重要性を認識してこなかった。というのは、会計は上記の見えざるものを「資産」として認識することができないからである。会計学では、情報利用者の意思決定をミスリーディングしないようにするため、未実現の収益を計上することはできない。研究開発に必要なコスト、ブランドを構築し、レピュテーションを高めるための広告等にかかるコストは、発生時に即時「費用」化される。たとえば、レピュテーション向上の努力が企業価値を確実に高めるという確証がない限り、貸借対照表に資産計上することはできない。

けれども、アメリカのエンロン事件、国内の雪印乳業の不祥事等で彼らが受けたダメージを考えれば、レピュテーションを構築し、それらを毀損しないよう維持することは非常に重要である。会計学、とくに企業内部の経営管理を志向する管理会計でも、近年、レピュテーション管理の重要性を認識し始めている。現在、日本会計研究学会・スタディグループ（城西国際大学・櫻井通晴委員長）では、国内企業に対してレピュテーション管理についてのアンケート調査を行うなど、レピュテーションについての研究を進めている。懇談会では管理会計からみたそれらの最新の調査結果等を報告したい。

【プロフィール】

1977年東京に生まれ、大阪に育つ。関西大学商学部准教授。専門は、管理会計、経営分析。インタangibleズ（イノベーション能力、ブランドなど、企業の有する目に見えない資産）の経営管理を対象とした研究に従事。1999年関西学院大学中途退学（飛び級）、2001年関西学院大学大学院商学研究科博士課程前期課程修了、2004年関西学院大学大学院商学研究科博士課程後期課程単位取得退学。博士（商学）。2004年から九州産業大学（福岡）に奉職、2008年より現職。日本会計研究学会、日本管理会計学会、原価計算研究学会等に所属。

料金政策を考慮した都市高速道路の交通運用

環境都市工学部教授 秋山孝正

【概要】

政府は『生活対策』に基づき、「高速道路の大型割引」として、休日の上限料金を1,000円とする割引や平日全時間帯に3割引を導入した。このETCを活用した高速道路料金が効果的交通政策となるかは未知数である（愚策では？という意見もある）。またETCはすべての高速道路に導入されたが、都市高速道路と都市間高速道路は、道路構造・利用目的・料金体系が相違することから、ETC導入の意義は必ずしも同じではない。特に阪神高速道路・首都高速道路などの都市高速道路では事情は複雑である。従来から対距離料金制度（利用距離に応じて料金を決定する制度）が採用されている都市間高速道路に対して、都市高速道路では効率性の視点から、均一料金制度（一料金圏内ではどこまでいっても同じ料金である制度）が採用され、料金所を利用した流入制御によって、都市内の円滑な交通を生み出すための交通制御が可能であった。

ETCの導入は、電子的な料金徴収による人件費の節約と、対距離料金制や各種割引料金制を可能とした点は画期的である（混雑料金などのこれまで技術的に困難とされた料金収受を可能とした）。しかしながら、一方で都市高速道路においては、①多様な料金設定により料金体系が複雑化する、②料金設定の変化（たとえば対距離料金制への移行）は利用者の交通行動変化を生じる、③従来の流入制御の運用が難しくなり高度な交通制御方法が必要になるなど、簡単にいえば「複雑な交通現象」の解明と運用が必要になる。このため、本研究では都市高速道路の利用料金変化に対応して、「利用者の交通行動変化を推計する交通ネットワーク解析」を行っている。

この料金制度の変更（対距離料金制）における特に顕著な行動変化は「乗り継ぎ」である。目的地までの移動を適当な区間に分割して利用する交通行動である。鉄道利用の場合の割引区間料金の組合せや都市間高速道路で発生している区間別利用などと同様である。すなわちETC割引による料金制度の変化は、単なる利用者の交通費用変化ではなく、都市交通現象全体に影響を与える。

これまで「料金政策」は都市交通の自律的な調整機能が基本であり、交通渋滞・交通障害に対して直接的に交通流に関与する「交通制御」とは区別した議論がなされてきた。そこでこれらの研究から、情報通信技術の飛躍的進歩と計算機システムの高機能化により、自律的な交通調整機能を有する料金政策と交通制御の一体的処理を行う知的交通運用システムの構築を目指している。

【プロフィール】

1958年兵庫県生まれ。関西大学環境都市工学部教授。専門は、交通計画、交通工学、都市計画、都市デザイン。京都大学工学部卒業、京都大学院工学研究科終了。京都大学助手、講師、岐阜大学助教授、教授を経て2008年9月以降現職。工学博士。著書『交通安全の経済分析』『すぐわかる計画数学』（編著）『交通工学』『道路混雑の経済分析』『鉄道駅とまちづくり』『ポストモータリゼーション』『幻の都市計画』『ファジィ理論の土木工学への応用』など（分担執筆）。阪神高速道路交通管制に関する調査研究委員会委員、都市交通研究所企画懇談会委員、岐阜県都市計画審議会委員、高山市都市計画審議会委員、岐阜県交通事故防止対策検討委員会委員、岐阜市都市経営戦略会議委員、岐阜市総合交通政策協議会副会長など。